

伊米神社(光ゴケ)

ヒカリゴケは北半球に分布し、雨溝や洞窟など他の植物がほとんど育たないような軟らかくじめじめした土壌の光の少ない環境で生育する。球状の細胞から反射される光が、緑がかった金色の輝きを放つことから、「ゴ布林ゴールド」という別名がついている。金網が設置されているのは動物からコケを保護するためである。このコケは伊米神宮社の本宮である苗場山（なえばさん）山頂には以前から自生していたが、本社に生えているのが初めて確認されたのは2000年頃である。このような標高の低い場所ではめったに見られないため、この突然の出現は祭神たちの恵みであると地区の住民たちからは信じられている。コケの見頃は6月から7月初旬まで。